

# NCC エキュメニカル 協働基金

ローカルの活動から  
グローバルな活動まで、  
キリスト教の教団・団体を超えた  
エキュメニカルな取組みに、  
この基金をお役立てください。

第1期・第2期・第3期 報告

第4期 申請受付のご案内



# 助成先 活動報告

第1期

## マウンマウンインさんを支えるプロジェクト

**申請者** NCC東アジアの和解と平和委員会

**協働体制** NCC在日外国人の人権委員会、日本バプテスト連盟 市川八幡キリスト教会、日本バプテスト同盟 関東学院教会、日本バプテスト同盟 日本バプテスト厚木教会、日本バプテスト同盟 高槻バプテスト教会、マイノリティ宣教センター、アトウトウミャンマー支援

このプロジェクトは、ミャンマーにおける軍事クーデター以後、ミャンマーにおけるキリスト教リーダーとして、またミャンマーで最初に創設された平和センターの代表者として活動しておられたマウンマウンイン先生が軍事政権による迫害から逃れ、日本でサバイブするための支援を行ってまいりました。プロジェクトの目的は3つあります。

1つ目は先生の生活維持。先生が経験してこられたことを広く日本のキリスト教団体にいる人々にお伝えし、東アジアにおける平和実現への助言をいただくことです。そのためには先生の生活が維持されなければなりません。2つ目は先生が話す機会をできるだけ多く生み出していくこと、そして3つ目はそのための情報共有を行うことです。これらを目的に、このプロジェクトがスタートしました。マウンマウンイン先生の渡日のために力を合わせて取り組んだアトウトウミャンマー支援の世話人と、NCC東アジアの和解と平和委員会の代表者が組織を形成。ここの働きをアトウトウミャンマーの世話人会でも共有し、祈り会では霊的なリードをそして先生の具体的な生活のための献金をアトウトウが、そして活動をこの協働基金が支えてまいりました。協働基金によって、先生の活動は大変充実したものとなりました。特に、軍事政権による迫害から逃れた経験を証するようにとのオファーは多く

あり、WCC総会にも同じくミャンマーのキリスト者らとの再会のために出かけられることとなりました。ビザの申請を始め、先生の講演会のアレンジ、また通信費など、他の団体では賄えないものをこの協働基金から充当することができました。

このプロジェクトを通じて、先生お一人の在留を支えていこうという行動から、日本の外国人に対する政策の差別性にも気づかされました。さらにミャンマー大使館が日本にいるミャンマー人にパスポートを発給しなくなっているその現実にも、このプロジェクトの作業をする中で直面した問題の一つでした。

先生は現在もミャンマーへの帰国困難者です。現在は日本にあるミャンマーコミュニティを訪問し、若い牧師たちを励まし、礼拝メッセージをする活動にも加えられています。また、プロジェクトを通じて先生自身が日本の貧困の状況を知ることとなり、年末に行われた炊き出しで、ミャンマーふりかけを自ら調理しておにぎり300個分をつくっていただきました。引き続き、先生の活動を覚えてお祈りください。



## 第1期 : 青年委員会との協働による「NCCジェンダー正義に関する基本方針」策定プロジェクト

**申請者** NCCジェンダー正義に関するポリシー策定のためのワーキンググループ

**協働体制** 日本福音ルーテル教会、日本基督教団、日本聖公会、在日大韓基督教会、NCC青年委員会

この活動は、「NCCジェンダー正義に関する基本方針」を策定するため、第2回常議員会（2021年7月）において役員会から提案され、全会一致で承認され、結成されたワーキンググループによる取り組みです。その策定活動のために本基金は用いられました。NCCの複数の加盟教派教団の信徒によって構成されたエキュメニカル

なワーキンググループは「NCCジェンダー正義に関する基本方針」をドラフトし、NCC青年委員会とその関係者によるコメンテーター、アドバイザー、常議員などからのフィードバックをもとに改訂を重ねました。その後、第11回常議員会（2023年10月）に全会一致で承認され、第42回総会（2024年3月）で正式に採択されました。

第1期 :  
第2期 :

## わかちあい釧路

**申請者** 日本バプテスト連盟釧路キリスト教会  
**協働体制** 釧路YWCA、釧路友の会

この活動は、2020年の新型コロナの発生に伴い、生活困窮にある方々が増えたこと、そして、そのような方々を覚えて、「なにか、なんとか、支援ができないか」、そのような思いの中から、志を同じくする人々が集まり、活動が立ち上がりました。

「わかちあい釧路」は、月に1度、第3土曜日に、食料品、生活用品の無償配布をしています。市民の方々が、この活動に関心をもってくださり、食料や生活用品の差入を持って来られたり、近隣の商店や企業、またフードバンクや公共団体等からも物品を提供くださいます。

こちらの写真は、毎月第3土曜日に行っている、食料等の配布状況の写真です。毎回、50名から60名前後の

方々が、食料品を受け取りに来られます。また、後日、取りに来ることすらできない方々や、滞日・在日の外国人労働者や貧困学生等へ、約20袋ほどが配られます。

「わかちあい釧路」の働きは大きなものではありませんが、「あなたは決して一人ではありません」という目に見えるメッセージとして、今後も、細く長く続けていきたいと願っています。



第1期 :  
第2期 :

## 第28回・第29回世界エイズデー礼拝

**申請者** 日本聖公会東京教区人権委員会  
**協働体制** カトリック中央協議会HIV/AIDSデスク、ルーテルHIV/AIDSプロジェクト、日本キリスト教団有志

「世界エイズデー礼拝」は、日本聖公会東京教区人権委員会・カトリック中央協議会HIV/AIDSデスク・ルーテルHIV/AIDSプロジェクトが共催し、日本基督教団社会委員会が協賛となり、世界エイズデーである12月1日の前後の主日の夕刻に各教派によるエキュメニカルな体制で開催しています。

2022年の第28回の礼拝は、YouTubeでの同時配信も含めて聖公会の神田キリスト教会で開催しました。礼拝の中では「日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス」のけいたさんにお話しいただきました。HIV/AIDSの治療薬は進歩し、副作用も少なくなってきた一方で、エイズに対する差別や偏見は、ご自身の体験からも、いまだに医療機関でさえ多いと感じておられるということでした。HIVだけでなく、差別の対象となるようなほかの感染症の方々に対しても、少しでも優しい社会が実現できるよう頑張っていきたいと話されました。

2023年の第29回の礼拝も、YouTubeでの同時配信も

含めて日本基督教団代々木上原教会で開催。礼拝の中ではNPO法人ぶれいす東京代表の生島嗣さんにお話しいただきました。現在HIV/AIDSに使われている治療薬の現状について、服用しやすく、副作用も以前より出にくい処方になったため、治療しながら日常生活を送ることがずいぶん楽になってきたことを、まず初めにお話しされました。

以下は、礼拝式文の[派遣と祝福]の祈りです。

「私たちの言葉と行いによって、新たなHIV感染者とエイズに関連した死者が無くなりますように。さらにHIVそしてエイズと共に生きる人びとへの偏見と差別が無くなりますように。今も、これからも共に力を合わせていくことができますように。  
アーメン」



**申請者** 「みんなで助け合いプロジェクト」チーム

**協働体制** 日本バプテスト連盟札幌バプテスト教会、北海道マスコミ伝道センター「ホレンコ」、日本聖公会札幌キリスト教会、日本基督教団真駒内教会

コロナ禍になり飲食店の閉店が続く中で、若者たちのアルバイトがなくなってしまったというニュースが聞こえてきました。札幌YWCAと日本基督教団北海教区と札幌バプテスト教会の三者で話し合い若者たちに食糧や日用品を無料でお渡しするプロジェクトを立ち上げました。

呼びかけに応じて、全国・世界からたくさんの支援物資と募金が届き、当日は300名の来場を想定し、着々と準備を進めました。ところが、フタを開けてみると...長蛇の列ができると思った会場前には、時間になっても人っこ一人いませんでした。慌ててチラシを刷り、目立つ格好で、大学の門の前に若者を呼び込みにてかけました。また、会場前でも通りがかる若者たちに来場の呼びかけを行いました。すると、少しずつ若者たちが来始めました。そして、来場した若者たちが、SNS等でどんどん情報をシェアしてくれ、にわかに会場も活気づいていきました。

三者共催で始まった「さっぽろ若者応援プロジェクト」は、その後、ラジオ放送局ホレンコや救世軍札幌小隊も共催団体に加わり、2021年に、①06月26日／②07月27日／③09月28日／④11月11日と、4回に亘りプロジェクトを開催し、のべ1000名を超える若者が来場し、プロジェ

クトを終了しました。

北海道大学南門の目の前にある日本聖公会札幌キリスト教会を会場に、毎年2度プロジェクトを行っています。

前プロジェクト時代からお手伝いくださっていたホレンコや真駒内教会・厚別教会のみなさんも、すぐに手伝いにかけてくれました。仕入れ先のスーパーやお米屋さんともすっかり親しくなり、プロジェクトに協力してもらっています。活動を進めれば進めるほどに、来場者数は増えていっています。仕事帰りにスーツ姿で来る人も、小さい子どもを何人も連れてくる親も、留守番している弟の分ももらう中学生も、ハラルフードが必要な外国籍の方々も、弁当分かち合いの活動の常連さんも、みんないろいろな状況を抱えながらやってきます。このプロジェクトのために、全国から、世界から寄せられるみなさんのやさしさを、これからも、少しでも多くの人たちと分かち合うことができますように。



「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。」

**申請者** NCC東アジアの和解と平和委員会・在日外国人の人権委員会・教育部

**協働体制** 日本福音ルーテル教会社会委員会、在日大韓基督教会、日本聖公会大阪教区、日本カトリック正義と平和協議会、日本バプテスト連盟日韓・在日連帯特別委員会、平和を実現するキリスト者ネット、在日大韓基督教会在日韓国人問題研究所

2023年8月末、第2回「日韓ユース平和フォーラム」を開催しました。昨夏ソウルとパジュで開催された第1回に続き、日韓の若者40名が東京に集結しました。日本側は大学生を中心に、教会関係、キリスト教団体、僧侶や仏教徒など各地から多様なメンバーが集まりました。ユース実行委員と日韓ユース部会が学習会やオンライン会議を通して準備し、当日を迎えました。宿泊会場はオリンピック青少年センター。ユース達は再会を喜び合い、「日韓プラットフォーム会議」両国運営委員による挨拶、グラウンドルールの確認、自己紹介、アイスブレイク、交流会でスタートしました。2日目は関東大震災の歴史を学ぶスタディツアー。3日目は5グループに分かれてフィールドワークを実施し、今も残る日本の植民地支配の現場を歩きました。4日目朝は「声明文」起草のための話し合いです。午後は文科省前での「金曜行動」

に参加し、韓国側ユースが代表してアピールをしました。最終日の閉会式は、聖イグナチオ教会岐部ホールでした。日韓ユース代表がメッセージを述べ、行動計画採択&宣言朗読と閉会挨拶で解散しました。留学や就職のために参加できなかったユースもいましたが、昨年韓国側スタッフだった方が日本に留学し、今年は日本側スタッフとして通訳やハンドブックの翻訳を担ってくださいました。

声明文は、9月3日(日)夜の在日大韓基督教会東京教会での「虐殺犠牲者追悼礼拝」でも朗読されました。「ユース平和フォーラム」は今年の夏、第3回を開催します。

歴史認識は決して「国対国」ではなく、個人の認識の違いによります。参加メンバーは多少入れ替わりますが、平和をつくり出す働き人として今後もゆるやかに繋がってほしいと願っています。



第2期 :  
第3期 :

## だれでも食堂夕焼けこやけ

**申請者** 日本バプテスト連盟福井キリスト教会**協働体制** 日本同盟基督教団福井中央キリスト教会、NPO法人福井アーク、地域の隣組メンバー

2021年6月、コロナ禍の中でこの活動を始めました。毎月第4金曜日の夕方に、また加えて2023年6月からは、毎月第1木曜日も気まぐれ惣菜の日（おかずのみ2品配布）としました。

食堂の目的は、赤ちゃんから高齢者まで国籍が異なる方も、障がいがある方もない方も、いろいろな方が集まり、大家族で食卓を囲むことを大切に、安心して他者に向かって助けて!と言える関係づくりです。多様性を喜び、参加者は、たくさんの違いに出会うことで気持ちが大らかになり、お互いを認め合うこと、ひとりひとりが大切な存在であることに気づきます。そして、互いに励まし合い「自分はひとりではない」と思える、そのような居場所になることが目的です。

現在、参加されている皆さんは、ひとり親家庭、依存症回復に取り組んでおられる方、ひとり暮らしの高齢者、共働きのご家庭、外国籍の方、精神的な病や発達障がいを抱えた子どもたちなどです。赤ちゃんから高齢者ま

で、だれもが来られるみんなの居場所です。120名ぐらいの皆さんが利用されています。

福井県立大学社会福祉学科の学生さんも、食堂に関心をもってくださり、インタビュー、お手伝いに来られましたが、子どもたちにとっては憧れのお兄さん、お姉さんで、嬉しい出会いとなりました。

また、特に、エキュメニカル協働基金をいただくことで、他団体と協働した作業ができるようになり、ネットワークの広がりが生まれたことは感謝でした。福井中央キリスト教会、ひきこもり支援事業所こむふくさん、日本基督教団如鷲教会、聖公会福井聖三一教会、地域の皆様方の協働により、この働きはなされています。

第2期 :  
第3期 :

## 名古屋市中区における炊き出し活動

**申請者** ささしま共生会**協働体制** カトリック半田教会・福信館炊出しの会、名古屋YWCA、日本基督教団 愛知西地区、日本福音ルーテル教会、日本聖公会・笹島キリスト教連絡会、在日大韓基督教会名古屋教会

名古屋市内で炊き出しが始まったのは50年近く前の1967年年末の名古屋越冬活動に続く、平日における炊き出しも行われて行くという流れから現在に至っているものです。その年のホームレスの死者数が15名という報道を受け、名古屋でも支える活動が必要とキリスト教の教会や、支援団体による小さな食料配布がスタートでした。この数十年の間に、それぞれが食料配布を行っていた教会や団体が集まり名古屋炊き出しの会が結成され、その後『ささしま共生会』という団体になっていきました。その始まりは国鉄名古屋駅改札のあたりでおにぎりとおみそ汁をお配りするものだったそうですが、ピーク時は600人の方にお渡ししていたと、当時から活動をされるボランティアの方のお話です。名古屋駅が刷新される工事に伴い、活動場所を変えていかななくてはならないこと数回で現在の名古屋市中区、名古屋高速高架下は5か所目の配食場所となっています。高架下ということで、雨天の

日も雨もしのげ、炊き出しを行うことができます。現在の利用者数は各回平均で125名ほどですが、同じ会場でもリーマンショックの頃は400人程のご利用者数でした。

15年間のNPO団体を経て現在は任意団体として活動を続けるささしま共生会は、全国からの個人の方や、基督教会などの団体からのご寄付により支えられ、さらに調理や配食は登録150名を超えるボランティアの方により長年の活動が行われています。炊き出しを開始していた個々の団体がキリスト教の教会が主だったことから、各教会が月曜日木曜日のひと月8回の炊き出しを交代で担っています。



## 第3期はこれらの活動を応援しています。(2024年4月から2025年3月)

### シニアのためのご近所食堂

- 申請者 一般社団法人札幌YWCA
- 目的 食事会を通して、高齢者の安心で安全な暮らしを地域の人々が日常的に見守ることができるような場と、困ったときには、気軽に相談できる場(教会、YWCA等)を複数作り出し、分断されつつある人と人との頼の関係の回復をめざします。
- 協働体制 一般社団法人札幌YWCA、日本バプテスト連盟札幌バプテスト教会、日本キリスト教団琴似中央通教会、日本キリスト教団月寒教会、札幌市中央区山鼻町内会6区こぶし会

### お弁当分かち合い

- 申請者 お弁当分かち合いチーム
- 目的 毎週金曜日に手作りのお弁当を無料でお渡しします。合言葉は「神さまからいただいている恵みを分かち合う」。恵みを分かち合うということで、取りに来られる方々にはどなたにでもお渡しします。多くの食料を預かった者は、分かち合う喜びと責任を託された者であると捉え、感謝と責任を思い、皆で分かち合っていく今日を明日をつくり上げていくことに取り組みます。
- 協働体制 札幌バプテスト教会、日本キリスト教会札幌豊平教会、日本聖公会札幌キリスト教会、DAY BY DAY

### 難民命の緊急基金支援プロジェクト

- 申請者 NCC 在日外国人の人権委員会、NCC 東アジアの和解と平和委員会、在日韓基督教会社会委員会
- 目的 ①窮地に陥る難民申請者や未登録外国人への支援金給付という具体的支援により、金額が少なくとも現状をわずかでも良い方向に向かわせます。  
②それは「あなたのことを決して忘れていない」という市民社会からのメッセージとします。  
③「支援者」対「支援を受ける人」という関係を超え、マイノリティに苦難を強いる国家=マジョリティ社会の問題として考え、変化をもたらすための契機とします。
- 協働体制 NCC 在日外国人の人権委員会、NCC 東アジアの和解と平和委員会、在日韓基督教会社会委員会、外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会、在日韓基督教会在日韓国人問題研究所、マイノリティ教センター、アトウトウミャンマー、日本福音ルーテルむさしの教会、日本基督教団竜ヶ崎教会、日本バプテスト同盟駒込平和教会、日本バプテスト連盟目白ヶ丘教会、NCC 教育部、日本バプテスト連盟豊中教会、日本福音ルーテル帯広教会、日本バプテスト同盟野並キリスト教会、日本基督教団四街道教会、日本カトリック難民移住移動者委員会、移住者と連帯する全国ネットワーク

### 名古屋市中区における炊き出し活動 ※第2期に引き続き助成

- 申請者 日本福音ルーテル教会東京教区・ささしま共生会
- 協働体制 日本福音ルーテル教会東海教区・ささしま共生会、日本福音ルーテル教会、福信館炊出しの会、名古屋YWCA、日本基督教団愛知西地区、日本聖公会、笹島キリスト教連絡会、在日大韓基督教会名古屋教会、ささしま共生会

### だれでも食堂夕焼けこやけ ※第2期に引き続き助成

- 申請者 日本バプテスト連盟福井キリスト教会
- 協働体制 日本バプテスト連盟福井キリスト教会、日本同盟基督教団福井中央キリスト教会、日本聖公会福井聖三一教会、日本基督教団如教会、坂井市ひきこもりサポート事業みんなの居場所こむふく、その他地域の隣組、福井市役所職員、国際交流会館職員、グラフィックデザイナー等

### みんなで助け合いプロジェクト ※第2期に引き続き助成

- 申請者 みんなで助け合いプロジェクト
- 協働体制 札幌バプテスト教会、日本聖公会札幌キリスト教会、日本基督教団真駒内教会、北海道マスコミ伝道センター(ホレンコ)